

2026年 第2週 1月5日～1月11日

西多摩保健所感染症週報

東京都西多摩保健所
Tel 0428-22-6141

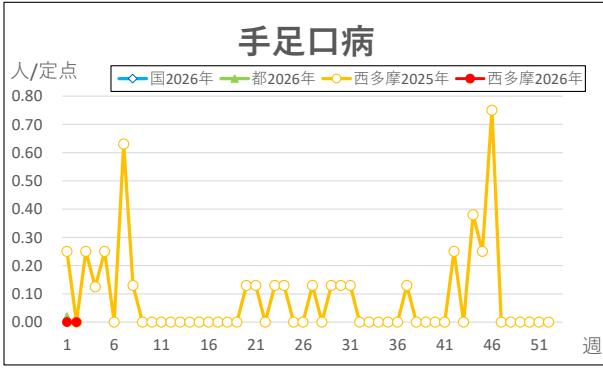
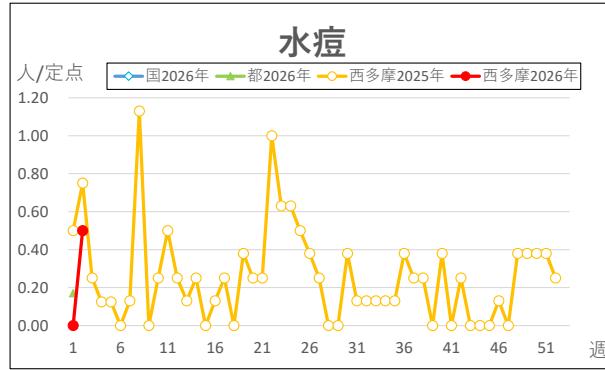
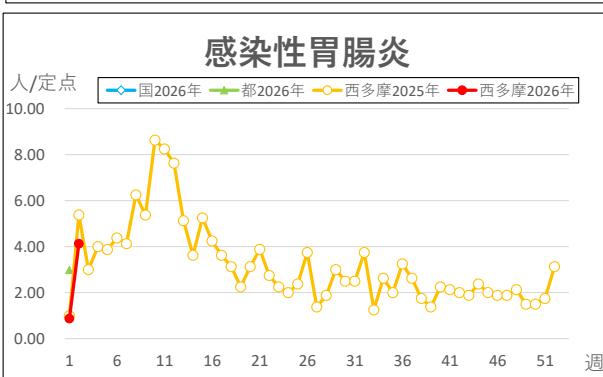
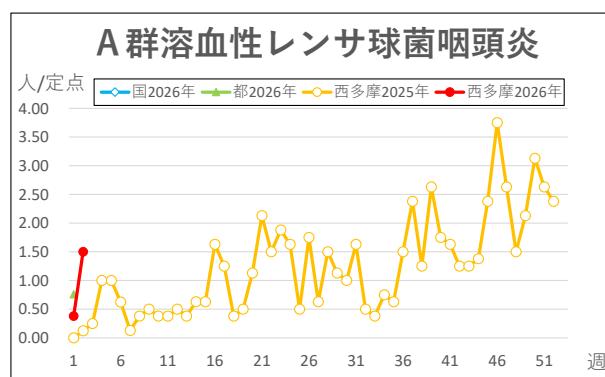
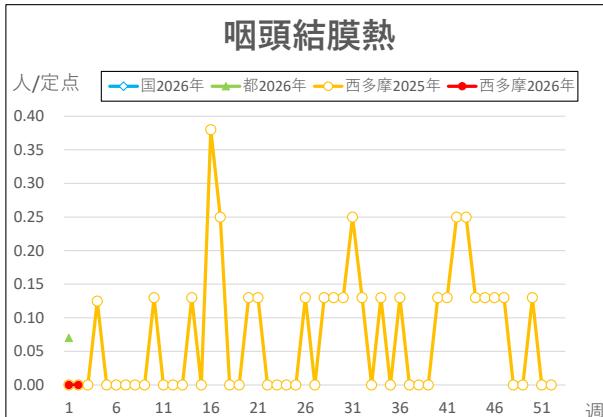
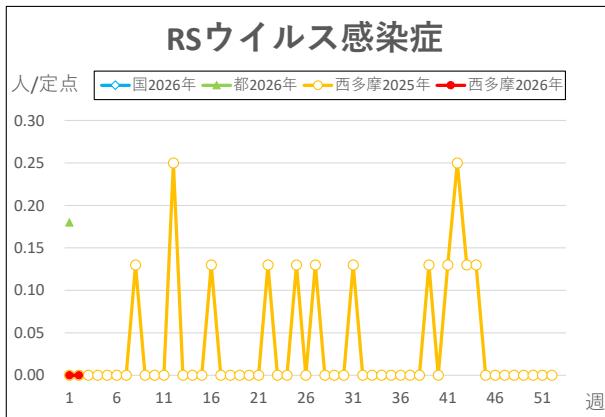
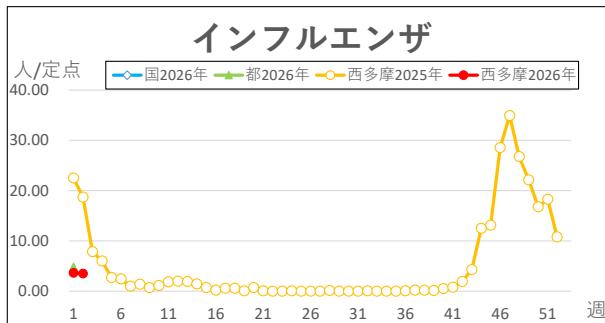
管内の発生動向及び定点把握対象疾患

- 全数届出の疾患は、侵襲性インフルエンザ菌感染症1件（男性、70代）、百日咳2件（男性1件 女性1件、40代1件 80代1件）の報告がありました。
- 定点報告は、新型コロナウイルス感染症1.86（0.57）、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎1.50（0.38）、感染性胃腸炎4.13（0.88）、水痘0.50（0.00）、伝染性紅斑0.13（0.00）、突発性発しん0.25（0.00）、急性呼吸器感染症26.00（10.43）で、前週より増加しています。

管内の感染症集団発生状況

- インフルエンザ2件（高齢者入所施設1件、医療機関1件）、新型コロナウイルス感染症1件（医療機関）、感染性胃腸炎1件（障害者入所施設）、不明熱1件（高齢者入所施設）の報告がありました。

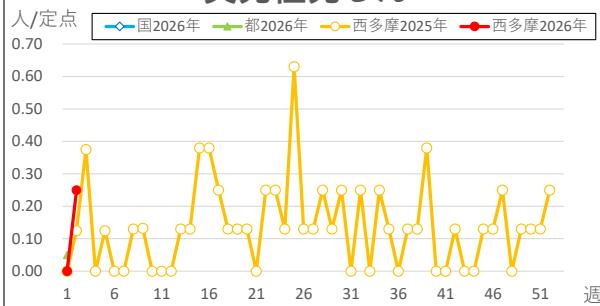
*国のデータは2週間遅れ、都のデータは1週間遅れて掲載しております。



伝染性紅斑



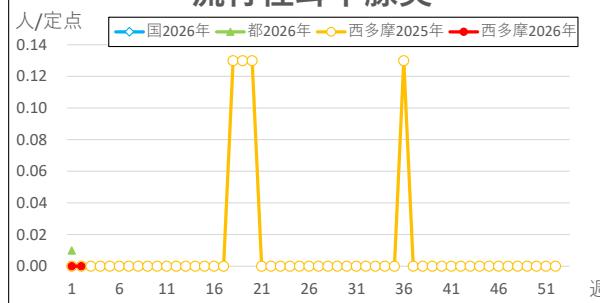
突発性発しん



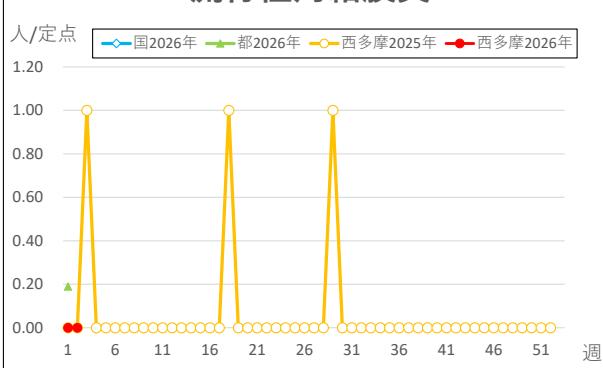
ヘルパンギーナ



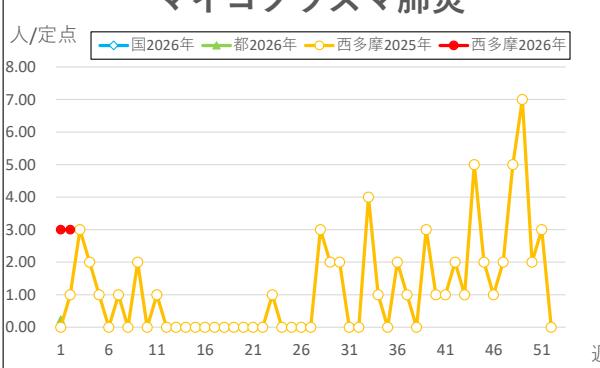
流行性耳下腺炎



流行性角結膜炎



マイコプラズマ肺炎



急性呼吸器感染症（ARI）



今週のトピックス

～RSウイルス感染症～

かつては冬に流行するウイルスでした。コロナ禍後は流行がすれこみ、2025年は主に夏に感染のピークが見られました。しかしながら、2025年は1月～2月にかけての増加が見られたため、本年も徐々に発症が増加することが危惧されます。

※東京都感染症情報センター

<https://idsc.tmiph.metro.tokyo.lg.jp/diseases/rs-virus/>



どのような病気ですか？

1歳までに3人に1人が罹患するといわれており、2歳までにほぼ全員が感染します。成人も感染します。
ほとんどが風邪症状のみで終わりますが、重症化すると、細気管支炎、肺炎を引き起こし、喘鳴や呼吸困難を引き起こすことがあります。終生免疫を獲得しない病原体のため、複数回感染が繰り返されることもあります。

どのようにうつりますか？

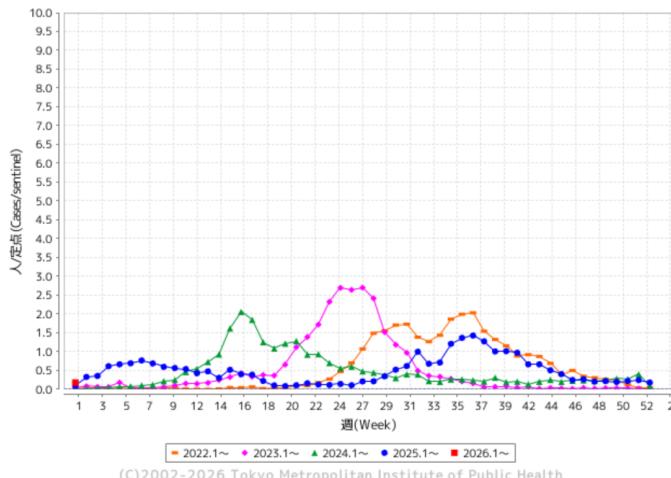
RSウイルスは接触感染、飛沫感染によって広がります。潜伏期間は約4～6日です。

どのように予防できますか？

特効薬はなく、対症療法がメインの治療です。

インフルエンザ、新型コロナウイルスなどと同様、手洗い、うがい、環境消毒、マスク着用が推奨されます。

高齢者、妊婦さんの接種できるRSウイルスワクチンがあります。接種することで、RSウイルスに対する抗体ができ、自己の感染や胎児への垂直感染を予防することができます。



(C)2002-2026 Tokyo Metropolitan Institute of Public Health

～マールブルグ病～

マールブルグウイルス（宿主はオオコウモリ）が病原体です。初期症状は発熱、頭痛、筋肉痛、背部痛、発疹、咽頭痛などで、激しい嘔吐が繰り返され、その後1～2日で水様性下痢を認めます。重症化すると発赤が全身に拡がり、神経症状、出血、ショックを伴うこともあります。潜伏期間は通常3～10日で、コウモリや罹患者との接触感染が経路となります。致命率が25～90%と非常に高い感染症です。

1968年以降、主にサハラ以南のアフリカで発生しており、2025年11月にエチオピアにて同国初の感染が報告されました。
同年12月22日の段階での同国での報告は計14例です。

治療法やワクチンは現段階で確立しておりません。今後の潜在的な感染拡大が危惧されております。



直近8週間の西多摩保健所管内定点医療機関報告数（定点当たり）

	47週	48週	49週	50週	51週	52週	1週	2週	1週目からの累計
インフルエンザ	489	375	310	235 (16.79)	256 (18.29)	151 (10.79)	51 (3.64)	49 (3.50)	100
新型コロナウイルス感染症	29	8	7	12 (0.86)	7 (0.50)	18 (1.29)	8 (0.57)	26 (1.86)	34
RSウイルス感染症	0	0	0	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0
咽頭結膜熱	1	0	0	1 (0.13)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	21	12	17	25 (3.13)	21 (2.63)	19 (2.38)	3 (0.38)	12 (1.50)	15
感染性胃腸炎	15	17	12	12 (1.50)	14 (1.75)	25 (3.13)	7 (0.88)	33 (4.13)	40
水痘（みずぼうそう）	0	3	3	3 (0.38)	3 (0.38)	2 (0.25)	0 (0.00)	4 (0.50)	4
手足口病	0	0	0	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0
伝染性紅斑	0	0	0	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	1 (0.13)	1
突発性発しん	2	0	1	1 (0.13)	1 (0.13)	2 (0.25)	0 (0.00)	2 (0.25)	2
ヘルパンギーナ	0	1	0	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0	0	0	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0
流行性角結膜炎	0	0	0	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	0
マイコプラズマ肺炎	2	5	7	2 (2.00)	3 (3.00)	0 (0.00)	3 (3.00)	3 (3.00)	6
急性呼吸器感染症（ARI）	672	692	618	547 (39.07)	641 (45.79)	487 (34.79)	110 (7.86)	364 (26.00)	474

○グラフは、5類定点把握対象疾患についての推移を表しています。グラフ縦軸の目盛は定点あたりの患者報告数です。

○管内定点医療機関数は、小児科定点8、内科定点6、眼科定点1、基幹定点1となっています。

○毎週の患者報告数は、管内の定点医療機関から毎週月曜日に報告を受け、週報として木曜日に発行いたします。

○データの出典元は、下記のとおりです。国及び都のデータは1週間遅れで掲載しております。

〈出典〉 東京都、西多摩保健所のデータ：東京都感染症情報センター <https://idsc.tmiph.metro.tokyo.lg.jp/>
国データ：国立健康危機管理研究機構（JIHS） <https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/index.html>